

2 学期始業式あいさつ

おはようございます。

夏休みが終わりました。皆さんにとってどんな夏休みでしたか？

私は、この夏休み中に、皆さんが、クラブの試合や発表会、就職活動、進学講習などに、真剣に取り組んでいる姿をたくさん見ました。

8月の1週目は、鳴門で開催された全国インターハイに陸上部の応援に行きました。暑い中、5日間の開催で集中力やコンディションを維持するのが大変だったと思います。男子棒高跳びの優勝をはじめ5名の選手が8位以内に入賞するなど、素晴らしい結果を残してくれました。特に、男子は全国総合第4位の快挙を達成しました。一方で、思うような結果を出せず悔しい思いを抱いた選手もいました。しかし、インターハイがゴールではありません。競技生活の通過点と捉え、この大会で経験したことを今後の競技に活かして欲しいと思います。

2週目は奈良で開催された体育科の全国大会に出場した女子バレーボール部の応援に行きました。リーグ戦の最終日、対戦相手は同じ大阪の汎愛高校でした。1・2セットとも大接戦でしたが結局2セットとも奪われ、負けた試合でした。実はコロナの関係で出場すら危ぶまれた本校でした。そんな中で、「今できることは何か」をしっかりと考え臨んだ大会でした。試合を経験した部員たちは、本当に悔しい思いをしたと思いますが、私は、学んだことのほうが多かったと感じています。それは応援していただいた保護者の皆さまも感じておられました。顧問の先生は、「部員たちを本気にしたい！」と言っています。これからの活躍に期待です。

3週目は、軽音楽部のスニーカーエイジ関西グランプリ大会ファーストステージの応援です。大塚高校らしくビートのきいた迫力満点でパワー溢れる演奏をしてくれました。大会の様子はライブ配信されていたので、観た生徒も多いと思います。演奏後のインタビューで、部員は「大塚は運動部の活躍がすごくて注目されていますが、文化系クラブも頑張っているのを知って欲しいので、思いっきり演奏しました」と答えていました。本当にその通りで、練習環境が十分でない中で、動画の1次予選を突破してのグランプリ出場、審査員の方からは大塚らしい迫力のある演奏だとほめていただきました。

夏休み中のすべての大会や発表会に行くことはできませんでしたが、これ以外の綺羅部もさまざまな大会で練習の成果を発揮してくれました。

そして、昨日は夏の甲子園の決勝戦でした（観に行けていませんが）。決勝戦を終えた高校野球の監督が、「大舞台が選手を成長させた」とコメントしています。大舞台は人それぞれです。先ほどのインターハイや体育科の全国大会、スニーカーエイジも大舞台です。

なぜ、大舞台が選手を成長させているのでしょうか。さまざまな大舞台では皆、緊張します。緊張は何のためにあると思いますか。皆さんを苦しめるためではなく、皆さんのためにあります。簡単に言うと、「緊張」を「栄養」と言い換えてみてください。緊張とは心の成長に必要な栄養素です。もし、まったく緊張を経験しないまま大人になると大変です。おそらく体格はよくても、心が弱いと社会ではやっていくことができません。緊張という栄養素を吸収することで心はどんどん成長します。緊張しなければならぬ場面が来たら、喜びましょう。成長するチャンスです。そして、緊張感を楽しみましょう。すると、いい結果が付いてきます。

2学期は体育祭や文化祭など緊張する場面が多くあります。就職試験や 指定校推薦の面接もそうです。部活動の大会での緊張もちろん心の成長につながります。小さな緊張をコツコツ経験し、心をレベルアップさせましょう。

これが2学期の目標です。

皆さんの心と身体の成長に期待して、始業式の挨拶とします。